

令和八年度

高等学校入学者選抜学力検査問題

釧路新聞社 第一部

国語

注意

- 1 問題は、**一** から **四** まであり、11ページまで印刷してあります。
- 2 答えは、すべて別紙の解答用紙に記入し、解答用紙だけ提出しなさい。
- 3 問いのうち、「……選びなさい。」と示されているものについては、問いで指示されている記号で答えなさい。
- 4 問いのうち、字数が指示されているものについては、句読点や符号も字数に含めて答えなさい。

一 次の問いに答えなさい。(配点 28)

問一 (1)、(2)の——線部の読みを書きなさい。

- (1) ここは、地域の人々の憩いの場となっている。
- (2) 登場人物の含蓄のある言葉に感動した。

問二 (1)、(2)の——線部を漢字で書きなさい。

- (1) 大つぶの汗がヒタイから流れる。
- (2) 農業は、この地域のキカンとなる産業だ。

問三 次の文の——線部と~~~~線部が適切に対応するよう、に当てはまる語を書きなさい。

彼は、まるで薄い氷の上を歩く、少しずつ慎重に進んでいった。

問四 次は、中学生の安藤さんが、で囲んだ漢字を漢和辞典で調べる方法を述べたものです。あなたが安藤さんになったつもりで、①に当てはまるものを、I群のA、Bから一つ選び、選んだものに応じて②に当てはまる最も適当なものを、II群のA、Bから選びなさい。

私は、この漢字を①索引で調べようと思います。この引き方で調べる場合、まずは①索引のページで②の漢字がどのページに載っているかを調べます。そして、この漢字を探して見つけます。

照

〔I 群〕

A 部首

B 総画

〔II 群〕

A まだれ

オ 十二画

イ れんが

カ 十三画

ウ りつとう

キ 十四画

エ おおがい

ク 十五画

問五 次の文章を読んで、(1)～(3)に答えなさい。

これは、藤原道長（入道殿）が催した船遊びに、藤原公任（大納言）が参加したときの話です。この船遊びでは、道長が、漢詩（作文）の船、音楽の船、和歌の船と、三つの船を用意し、その道に優れた人をそれぞれの船に分けて乗せ、その腕を披露させました。

入道殿「かの大納言、いづれの船にか乗らるべき」とのたまはすれば、「和歌の船に乗りはべらむ」とのたまひて、詠みたまへるぞかし、

¹ 小倉山あらしの風の寒ければ紅葉の錦着ぬ人ぞなき

申し受けたまへるかひありて遊ばしたりな。御みづからも、のたまふなるは、「作文
お願いしてお乗りになっただけあって、見事にお詠みになったものです

のにぞ乗るべかりける。さて、かばかりの詩を作りたらしましかば、名のあがらむ
そうして、これほどの漢詩を作っていたなら

こともまさりなまし。口惜しかりけるわざかな。さても、殿の、『いづれにかと思ふ』と
より以上だったろうに 残念だったことだ

^エ のたまはせしになむ、^オ 我ながら心おごりせられし」とのたまふなる。

得意にならずにはいられなかった

（「大鏡」による）

（注）申し受けたまへるかひありて遊ばしたりな——語り手の感想。

(1) 線ア～オのうち、入道殿の動作を表しているものを、二つ選びなさい。

(2) 次は、線1の和歌について説明したものです。①に当てはまる語を和歌から書き抜きなさい。また、②に当てはまる表現を、五字以上、八字以内で書きなさい。

この和歌は、小倉山や嵐山から吹く冷たい風によって散る「^①」を、「人々が^②」に見立てて詠んでいる。

- (3) 線2「我ながら心おごりせられし」とありますが、大納言がこのような気持ちになった理由を説明したものととして最も適当なものを、ア～エから選びなさい。
- ア 自分の詠んだ和歌の情景を、人々が高く評価していると感じたから。
 - イ 入道殿に、漢詩、音楽、和歌の全ての道で認められていると感じたから。
 - ウ 乗る船を自分で選べるほど、入道殿に地位の高さを認められていると感じたから。
 - エ 素晴らしい漢詩を作ることができたなら、今以上に名が上がるだろうと感じたから。

二 次の文章を読んで、問いに答えなさい。(配点 36)

偉大な芸術は、偉大であればあるほど時代を越えようとしているから、同時代では理解されないことがしばしばある。時代¹に先駆ける天才的芸術家と、その時代の間には、修復しがたい対立がある。例えば、ゴッホやセザンヌは時代に先駆けた天才であったが、それゆえにこそ、その時代には評価されなかった。ゴッホは、生前にはまったく無視されていたし、セザンヌに対する評価もあまりにも遅すぎた。ゴッホやセザンヌは、絵画において、ほとんど信仰にも近い形で徹¹「テイ」的に〈生命〉や〈形〉を追究していったが、しかし、それは少しも時代と調和しなかった。芸術作品とその時代との食い違いは、この天才たちにおいては凄^{すま}まじいものがあった。

ところが、彼らの作品は、時代が変わることによって急に評価されるようになる。時代の体験がようやく彼らについてきたとも言える。あるいは、時代の体験が、失ったものによりやぐ気づいたのだとも言える。そして、その失ったものを、その時代よりも以前に表現していた天才がいたことを、時代はようやく理解するようになる。かくて、同時代には評価されなかった作品が、独自のなものとして蘇^{よみがえ}る。

まったく見向きもされなかった作品が、時代が変わることによって評価され、作品が再生してくる。縄文時代には単なる生活の道具や祭器であった土器が、現代になって急に素晴らしい芸術として評価されるようになる。縄文時代の呪術的世界とそれを失った現代の文脈とは違うのだが、違うからこそ、逆に芸術として評価されるのである。場が変化するからである。とすれば、芸術作品は評価によって誕生するとも言える。批評家や鑑賞者が評価して、はじめて、一つの芸術作品は確立する。作品を解釈し評価しながらこれを形成する力として、批評家や鑑賞者を位置づけねばならない。時代時代に応じて評価変えされていくことによって、作品は永続した価値と意味をもつのである。

作品そのものは、それだけで意味をもつのではなく、それが置かれる文脈によって理解される。文脈が変わると、作品の見え方は変わり、意味も評価も違って現れてくる。わが国の江戸時代では単なる世俗的・商業的ポップアートにすぎなかった浮世絵が、その後、アメリカやヨーロッパで高度な芸術として評価されたように、同じ一つの作品も、別の文脈に置かれると意味が変わる。作品は、それぞれの文脈から物語られるのである。芸術作品が、それが成立した文脈を越えて長く生き長らえるのは、後の時代に常に評価変えされていくからである。

作品の意味や価値はそれ自身によって決まるのではなく、それが置かれる諸関係、時や所、機会や鑑賞者によって規定される。作品の意味や価値は、場の変化とともに変化するから、一義的には決まらない。作品がどのように評価されるかは出会いにより、偶然性を免^{まぬ}かれない。一つの芸術作品が成功するかどうか、制作者の主観的な意図や信念では決まらない。作品の置かれる場や連関、文脈や時代が、むしろ意味や価値の源泉なのである。

旧石器時代の洞窟壁画にすでに現れているように、芸術作品は体験の表現であり、表現は生命の根源的な働きである。しかし、表現を理解するには、われわれの側の体験がなければならぬ。われわれは、体験することによって理解する。深い体験をもった者は、作品の深い意味を理解する。カントが『判断力批判』の中で強調していたコウ²想力の源泉にも、体験がなければならぬ。しかも、一つの作品が理解されるには、共通体験がなければならぬ。であろう。例えば、わが国の水墨画にしても、俳句にしても、それは一つの象徴であり、その象徴が理解されるには、その背景にわが国の気候風土に根差した共通体験がなければならない。

しかし、それだけでも、理解は不十分である。特に、過去の作品と現在とでは時代の隔たりがあり、理解はしばしば困難である。縄文土器の作者の当時の体験と現代人の体験は、その条件において大きな乖離^{かいり}がある。その乖離を埋め合わせるのは、それほど容易ではない。過去の体験と現在の体験、理解されるべき物と理解する者の間には、抜きがたい差異がある。過去の作者の体験をそのまま追体験することも不可能である。体験の普遍性もない。

だが、共通体験とか、追体験といっても、同じ体験である必要はない。むしろ、時代の隔たりがあり、体験間に断層があるからこそ、理解は必要なのである。理解するためには、ある程度距離がなければならぬとも言える。体験と体験が表現を通して共鳴することが理解ということであるが、作者の体験と鑑賞者の体験が同一であることはできない。体験と体験の間にはズレがあるのだが、それにもかかわらず、体験と体験が共鳴するところに解釈は生まれる。すぐれた芸術作品に出会ったとき、水を打ったように沈黙を強いられる時があるが、このとき、作者の体験と鑑賞者の体験は、違いながらも火花を散らしている。そこから体験の重ね合わせができ、作品の体験と自己の体験が共鳴するとき、作品の解釈が誕生する。解釈が成り立ったとき、体験それ自身のより深い自覚がもたらされる。

鑑賞者が、その置かれている自己の体験から問いを立てる。その問いに対する答えが作品の中に表現されているとき、それを、鑑賞者は自己の体験から解釈する。そのとき、過去の作品は蘇り、過去と現在が結びつく。それは、現在から過去を照射することでもある。

作品は、過去の作者から現在の鑑賞者へと架けられた橋である。それが、相互理解のシンボルになるには、過去の作者と現在の鑑賞者との映し映されの関係がなければならない。こうして、過去の作者と現在の鑑賞者の出会いから、作品は絶えず新たに理解され、解釈の歴史が生まれる。その解釈は、時代の体験の変化とともに変化し、完結することはない。

理解とは出会いである。理解は鑑賞者と作者との出会いであり、それ自身出来事である。このとき、自己と他者の両方の理解が可能になる。私自身の体験から作品がよりよく理解でき、逆に、作品をよりよく理解できて、私自身がよく理解できる。私は、作品に出会うことによって自己に出会う。私は、作品を通して自己を再発見する。自己理解は他者理解であり、他者理解は自己理解である。芸術作品はそのためにある。

鑑賞者自身、歴史的・風土的に条件づけられているから、鑑賞者は、それを背景に作品を理解する。理解は、解釈者が立っている歴史的・風土的視野と、作品が背景にもつ歴史的・風土的視野が重なるところに成り立つ。しかも、解釈者の視野は多様だから、その重なりも多様である。

したがって、一つの作品は多くの視野から眺められ、そのパースペクティブの違いによって、様々な解釈が可能であり、統一的合意は成立しない。⁴どんな作品も、限りなく多様な鑑賞が可能であり、唯一絶対の美は存在しない。理解とはある視野からの解釈であり、視野の変化にしたがって、作品の見え方も変わる。時代の移り変わりとともに視野も移動するから、その視野の違いに応じて作品解釈も変わる。時代の変化はパースペクティブの変化をもたらし、解釈の変化となる。

(小林道憲「芸術学事始め―宇宙を招くもの」による)

(注) カント―ドイツの哲学者。

乖離―離れていること。

パースペクティブ―視点、視野。

問一 ―線1、2を漢字に直したとき、―線部に同じ漢字を用いるものを、それぞれア～エから一つ選びなさい。

1 徹_テイ_イ的

- ア このお店の_テイ_イキュウ日は火曜日だ。
- イ つばめが_テイ_イクウを飛行している。
- ウ 深海魚が_カイ_イを泳いでいる。
- エ 工場でお菓子の製造_コウ_テイを見学した。

2 _コウ_ウ想_リ力

- ア 昔からの友人に会い、_キユウ_コウを温めた。
- イ お弁当作りの_サン_コウになる本を買った。
- ウ 学校で進路に関する_コウ_エンを聞いた。
- エ 誰もが活躍できる社会の_コウ_チクを目指す。

問二 ―線1「時代に先駆ける……修復しがたい対立がある」とありますが、このことを次のように説明するとき、に当てはまる表現を、文中から十四字以上、十八字以内で書き抜きなさい。

ゴッホやセザンヌのように、時代に先駆けた天才たちのは大変大きかったので、彼らはまったく評価されなかったということ。

問三 この文章で筆者は、時代や場が変わることによって芸術作品として評価されるようになったものについて、具体例を挙げて説明していますが、このことを次のように整理するとき、

①に当てはまる最も適当な語を文中から書き抜きなさい。また、②に当てはまる説明を五十字程度で書きなさい。

①	縄文土器
②	生活の道具や祭器だったが、現代になって素晴らしい芸術として評価された。

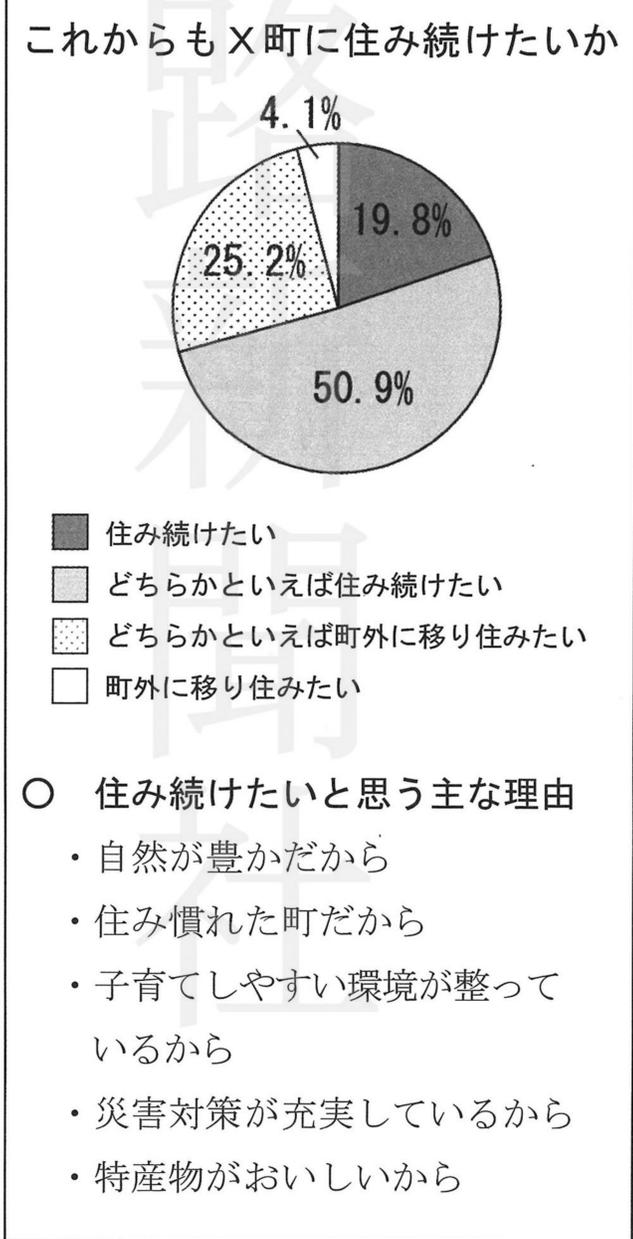
問四 ―線2「作品の意味や価値は……には決まらない」とありますが、ものの意味や価値がどのように規定され、変化する例として、最も適当なものを、ア～エから選びなさい。

- ア 海中に張った漁網の位置を示す目印の浮きが、店の装飾品になる。
- イ 不要になった古い着物が、かばんに作り替えられ再利用される。
- ウ 拾ってきた松ぼっくりが色を塗られて、クリスマスツリーの飾りになる。
- エ 子どもの頃に描いた似顔絵が、居間に飾られ長年大切にされる。

三

中学生の水沢さんは、総合的な学習の時間に、「わが町の未来」というテーマで学習に取り組んでいます。次は、X町が実施した住民アンケートの結果をもとに、水沢さんがまとめた資料の一部(A)と、X町役場の職員である堂本さんへのインタビューの場面(B)です。これらを読んで、問いに答えなさい。(配点 16)

(A) 資料の一部



(B) インタビューの場面

水沢さん X中学校の水沢です。本日はどうぞよろしくお願いします。X町が行った住みよい町づくりのための住民アンケートの結果を見たのですが、X町に「住み続けたい」、「どちらかといえば住み続けたい」と答えた人が全体の約七〇%でした。その理由の中に、「子育てしやすい環境が整っているから」とありましたが、このことについて、X町が特に力を入れていることはありますか。

堂本さん はい、X町では、子育て支援として様々な取り組みを行っていますが、その一つに二十年前から続いているブックスタートがあります。

水沢さん 私の家にも、その時にいただいた絵本があつて、お気に入りの一冊になっています。ブックスタートは、具体的にどのような取り組みなのですか。

堂本さん 赤ちゃんの検診のときに絵本を開く体験をしてもらい、絵本をプレゼントする活動です。X町では、絵本をプレゼントするだけでなく、その後も親子で絵本を読む機会をもち続けられるように図書館と連携して絵本コーナーを充実させたり、読み聞かせの会を実施したりしています。また、ボランティアの方が作った読み聞かせCDの貸し出しなども行っているのですよ。

水沢さん 色々と工夫されているんですね。ただ、ブックスタートは住みよい町づくりという点で考えると、子育てをしている人のため、町に住んでいる全ての人のためのものではないと感じてしまうのですが、いかがですか。

堂本さん そう思われる方がいるかもしれませんがね。ブックスタートには、それに関わる保健師や図書館員、ボランティアの人などが中心となって、子育てを温かく見守る人を増やし、地域の人同士の関係を築いたり深めたりするなどの役割もあり、住民の町への愛着を強め、住みよい町をつくることにつながっているのですよ。

水沢さん なるほど。

。地域に愛着をもつても

らうことが、「住み続けたい」という思いにつながるのだとわかりました。ブックスタート以外に、何か住みよい町づくりに向けた取り組みは行っていますか。

堂本さん

はい、住民のつながりの強さを生かして、困っていることや手伝えることなどを町のホームページで共有する「助け合い掲示板」の取り組みを行っています。こうした取り組みが、買物物の不便さや一人暮らしの不安の解消につながっています。

水沢さん そうなのですね。

堂本さん はい、現在、住民の方から町づくりに関するアイデアを募集しているので、他にも何かよい取り組みがあったら、ぜひ教えてくださいね。

水沢さん 広報でアイデアを募集していることを知り、応募したいと思っていました。私は、アンケートにある

堂本さん

それは素晴らしいですね。水沢さんのような若い世代の方が町づくりに興味をもち、考えていくことが、住みよい町づくりにつながると思います。

水沢さん そうおっしゃっていただいております。うかがったお話を、今後の学習に生かしていきます。本日はありがとうございました。

問一 (B)で、水沢さんは、どのようなことを心がけてインタビューしていることが分かりますか。分かることとして**適当でないもの**を、**ア～エ**から一つ選びなさい。

ア 相手から聞きたい話を引き出せるよう、話題をさらに掘り下げて質問している。

イ 相手が答えやすいよう、二者択一で答えられるように質問している。

ウ 相手が話しやすいよう、相づちを打ったり、感想を述べたりしている。

エ 相手への敬意や感謝の気持ちが伝わるよう、丁寧な言葉遣いで話している。

問二 (B)の [] に当てはまる表現として最も適当なものを、**ア～エ**から選びなさい。

ア ブックスタートには、子育て支援以外にも、地域の人をつなぐなどの役割があるのですね

イ ブックスタートは、長年にわたって、親子のために取り組まれてきたものなのですね

ウ ブックスタートでは、読み聞かせCDを作成し、子育てのお手伝いをしているのですね

エ ブックスタートは、ボランティアの方の協力でお金がかからないよう工夫しているのですね

問三 水沢さんは、(B)の [] で、住みよい町づくりのためのアイデアを説明しようとしています。あなたが水沢さんになったつもりで、[] に当てはまる表現を次の条件

1、2にしたがって、八十字以上、百字以内で書きなさい。

条件1 アイデアは、(A)の「住み続けたいと思う主な理由」の一つと関連させて書くこと。

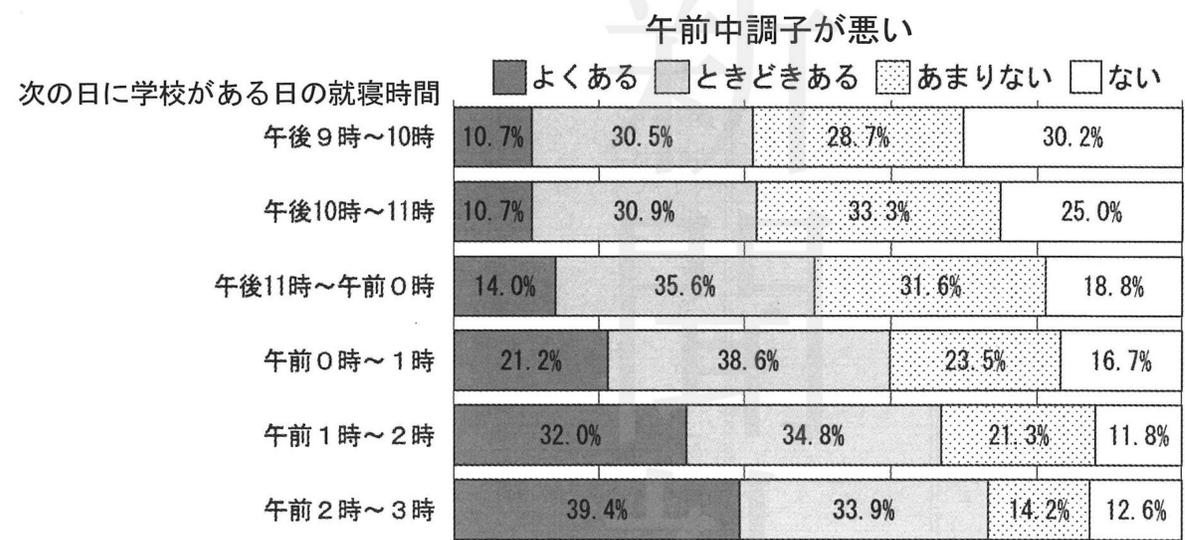
条件2 (B)の [] で囲んだ堂本さんの説明の仕方にならって書くこと。

四

K中学校の保健委員会では、全校生徒に「早寝早起き」を呼びかける取り組みを行うことになり、和田さんは、文書作成ソフトを用いて掲示物を作成することになりました。次は、作成している途中の掲示物です。これを読んで、問いに答えなさい。(配点 20)

なぜ早寝早起きが大切なの？

【調査】就寝時間と体の健康の関係（中学生）



「睡眠を中心とした生活習慣と子供の自立等との関係性に関する調査」(文部科学省 2014年度)より



調査の結果から

皆さんは、睡眠不足が原因で授業に、集中できないことがあると思います。

上の調査からも、早く寝た方がよいことがわかります。

このように、睡眠と体の健康は、密接につながっているのです！

問一 和田さんは、掲示物の に、早寝早起きが大切な理由について説明する文章を書きました。

に入る文章になるように、ア～エを適当な順に並べなさい。

ア したがって、普段から早寝早起きをすることで、勉強や運動で自分の力を最大限に発揮することができるのです。

イ この調整をくり返すことで調子が整い、昼間に脳と体が元気に動き、成長に大切なホルモンも出るようになります。

ウ 地球にいるほとんどの生き物は、「体内時計」というしくみをもって、時間や季節を感じ取っています。

エ 中でも、人間の体内時計は二十四時間より少し長いので、朝起きて太陽の光を浴びることで二十四時間に調整しています。

問二 次は、保健委員会で行われた、掲示物の「調査の結果から」の部分についての【話し合いの場面】です。これを読んで、(1)、(2)に答えなさい。

【話し合いの場面】

和田さん 掲示物の「調査の結果から」に文章を入れてみたのだけれど、どうかな。
谷さん 最初の文は、誰にでも心当たりがあることだから、共感してもらえるね。
藤本さん そうだね。文末を問いかける表現にすると、もっとよくなるのではないかな。
和田さん なるほど。では、一文目はどうかな。ここでは、調査の内容に触れてみたよ。
藤本さん 早く寝た方がよい理由を伝えるには、調査からわかる傾向をもう少し細かく分析して書くとういと思うよ。
谷さん そうだね。そうすると、さらに説得力のある文章になるね。
和田さん ありがとう、直してみるね。

(1) 【話し合いの場面】の内容を踏まえ、——線1を、解答欄に示した表現につなげて書き直しなさい。

(2) 【話し合いの場面】の内容を踏まえ、——線2を、四十字程度で書き直しなさい。

問三 次のX、Yは、掲示物の に入れる【キャッチコピー案】です。あなたは、XとYのどちらがよいと思いますか。あなたが選んだ記号を、解答欄の に書き、その上で、あなたがそのキャッチコピーを選んだ理由を、次の条件1～3にしたがって書きなさい。

条件1 解答欄に示した書き出しの文の後に一文で書くこと。

条件2 XとYのそれぞれの表現の特徴を書くこと。

条件3 選んだ案の表現の効果について書くこと。

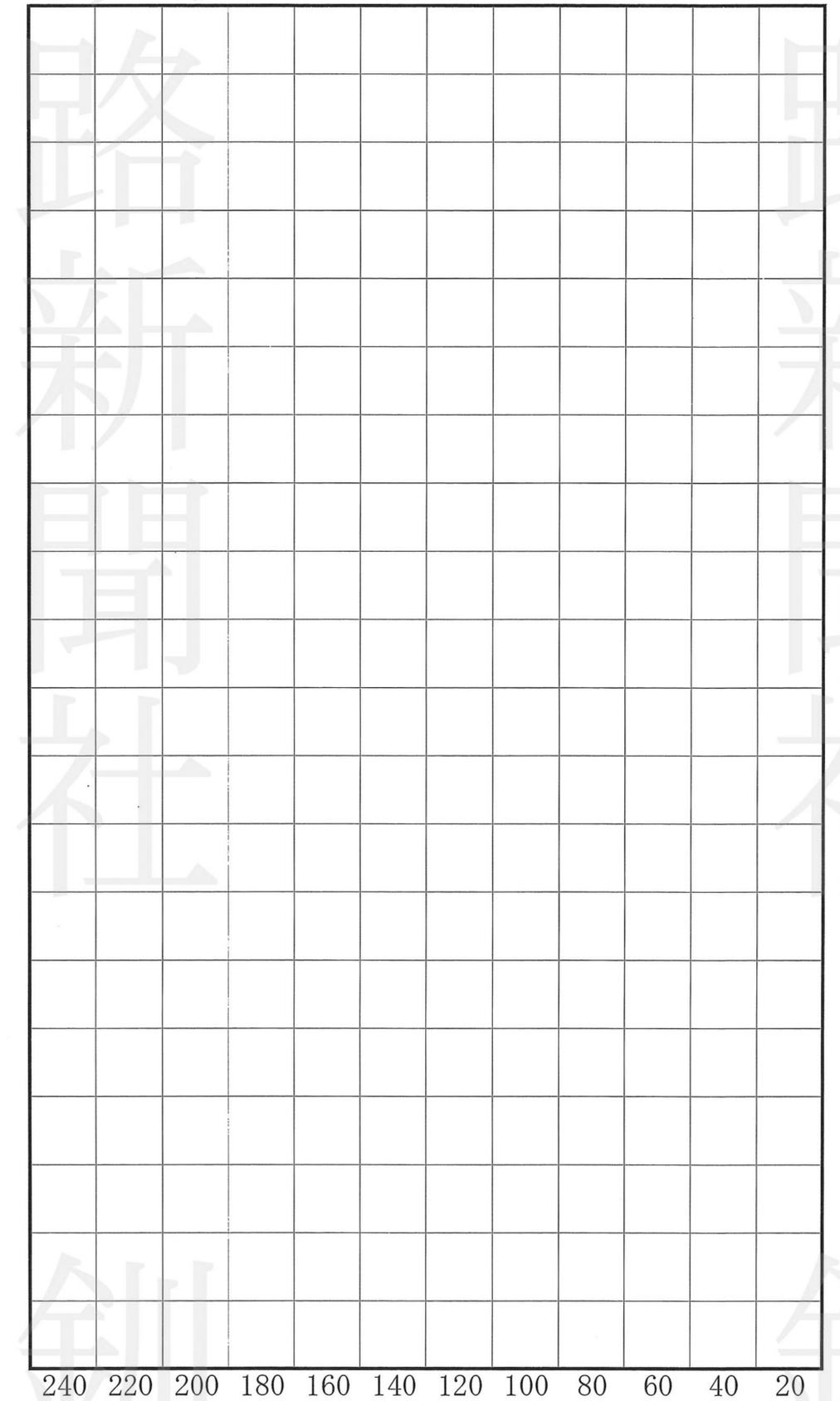
【キャッチコピー案】

X

早寝早起き
～私のカラダ、ととのう～

Y

早寝早起き
～調子整え引き出せ君の可能性～



左の枠は、下書きに使って構いません。解答は必ず解答用紙に書くこと。